

関係各位

2003年十勝沖地震被災地の歴史資料・文化財被害状況確認のお願い

台風10号の混乱もおさまらないうちに、このたびの大地震で再び被災された大きな被害と、今も続く不自由な生活に対して、謹んでお見舞い申し上げます。

私たち歴史資料ネットワーク（事務局・神戸大学文学部内）は、阪神・淡路大震災の被災地で、歴史資料を始めとした文化遺産の救出・保全をおこなってきた歴史研究者の団体です。私たちは、1995年1月の震災時に、全国の歴史学会など関係団体から支援を受けて、自治体や市民と協力しながら、地域社会の民間資料の救出や文化財の被害調査などをおこなってきました。また、今日も引き続き被災地における文化遺産の保全・再生に取り組んでいます。

この阪神・淡路大震災における歴史資料・文化財の保全復旧活動は、少なくない成果をあげました。また、当初心配されていた被災住民の反感もほとんどなく、むしろ好意的な反応がほとんどでした。しかし、その一方で、損壊建築物の解体の際に焼かれたり、道路復旧で撤去・破壊されたりした古文書や石造物も多く、それまであった文化遺産の三分の二が、被災地域から消失してしまったという報告もあります。前例がなかったこともあり、活動の始動が地震発生から約1ヶ月後と、遅かったことが現在の反省点の一つとして挙げられています。

その反省をふまえ、2000年の鳥取県西部地震や2001年の芸予地震では、阪神・淡路大震災の経験を伝えるのみでなく、神戸市から被災地へ多くのボランティアを派遣し、地震直後から活動を開始しました。去る7月に発生しました宮城地震でも、現地で活動をすすめている歴史研究者や地元の市民の方々と連携し、支援のセンターとして全国からの募金のとりまとめやボランティアの調整を行いました。これらの活動を通じて、現地でいち早く、組織的な保全活動についての体制がとれるかどうか、その後の地域遺産保全をすすめる上で重要であることが明らかになりました。

今回の十勝沖地震の被災地も、歴史的環境の豊かな地域として知られています。収蔵施設に保管されているもの、文化財指定を受けているものの他にも、地域のあちらこちらに、先人の営為を伝える歴史資産、文化遺産が数多く存在するはずで。

今回の大地震を乗り越えてそれらを保全することは、ライフラインの復旧に次いで重要であり、被災地域の社会や文化の復興に大きな力になります。古文書・近代や現代の写真・日記・さまざまな個人や団体の文書や記録、民具・石造物など地域遺産が、震災のせいで姿を消してしまわないよう、関係者の方々にはご配慮いただきたくお願いいたします。

これまでの経験からすると、被害が小さくとも旧家の本屋や蔵のわずかな雨漏りなどが原因で撤去・建て替えがあり、その際存在を認識されていない近代や現代の史料、古文書等がひんぱんに廃棄される可能性があります。今回は、地震の被害に加えて、風雨・津波

による災害も心配されています。しかしながら、水に濡れ一見すると廃棄処分せざるをえないかのように見える史料であっても、冷凍庫に入れるなどのフリーズドライの処置によって、保全することも十分可能です。

私たちは、地震後の地域遺産の保全に携わってきたものとして、出来る限りの支援・協力をしていくつもりです。文化財関係者の方々による地元での文化財被害状況調査及び保全活動をすすめられるようお願いする次第です。

最後に、鳥取西部地震・宮城地震のときの活動状況についての資料（新聞記事）をあわせてお送りいたします。ご参考までにご覧いただければ幸いです。ご不明な点がございましたら下記歴史資料ネットワークまでご連絡下さい。

2003年9月30日

歴史資料ネットワーク

代表 奥村 弘（神戸大学文学部助教授）

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 神戸大学文学部内

TEL&FAX 078-803-5565（平日 13時～17時）

URL:<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~macchan/>

e-mail:s-net@lit.kobe-u.ac.jp